

第1期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

名古屋大学

平成23年5月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、1項目が「非常に優れている」、3項目が「良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、1項目が「非常に優れている」、3項目が「良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 教育の成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「良好」とし、この結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「全学教育体制の強化策を講ずるとともに、教養教育院の整備拡充を図る」について、財務・整備専門委員会の設置等、教養教育院が整備され、独自の有効教員数算出に基づく全学教育の担当体制が定着していることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画で「全学教育体制の強化策を講ずるとともに、教養教育院の整備拡充を図る」「全学教育、学部、大学院の間における教育内容の一貫性の向上を図る」としていることについて、平成20、21年度においては、入学者の英語力の底上げを目指して教養教育院に「Academic English 支援室」を設置し、入学時に TOEFL-ITP 試験及び Criterion 試験を全員に受験させ、この結果に基づき、1年前期に習熟度別クラス編成をし、英語力に応じてパラグラフ・リーディング、パラグラフ・ライティング、プレゼンテーションの授業を実施し、1年次終了時に再度試験を行ってその効果を確認したことは、特色ある取組であると判断される。

② 教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3 項目）のうち、2 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「特に優れた資質を持つ学生に経済的援助を提供する」について、名古屋大学独自の学術奨励賞奨学金制度による奨学金の給付、国際学術交流奨励事業制度による研究費の助成を実施していることは、優れていると判断される。

③ 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4 項目）のうち、2 項目が「非常に優れている」、1 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2 項目が「非常に優れている」、1 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「在学生及び卒業生に教育満足度調査を定期的実施し、教授・学習の質の見直しと改善に役立てる」について、最終的には卒業後・修了後の学生及び受け入れた社会の評価が重要であり、卒業生・修了生及びその上司等に対して教育の成果に関する調査を実施し、教育方法・内容の見直しを行い、学生の満足度が向上していることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「教授法と技術の向上に必要な FD 活動を推進する」について、教育の質の向上を目指して、教員、学生、職員等を対象とする、よりよい教育を実現するための提案と具体的なアイデアをまとめた小冊子『ティップス先生からの7つの提案』を作成し、具体的な教育の質の向上のための、実践例を示していることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「教育学習に必要な資料・情報の収集・提供に努めるとともに、電子図書館的機能及びネットワークを高度化し、情報アクセス環境の整備を図り、教育学習支援機能を充実する」について、平成 20、21 年度においては、附属図書館内に多様な学生の学習ニーズに対応する「ラーニング・コモンズ」を設置したこと、自主学習を高い次元で実現すべく自主学習室「エース・ラボ」を設置したこと、特に後者において、個々人の自主学習のための環境に加えて、複数の学生が協調して創発的な学習コミュニティを形成する環境を整備したことは、特色ある取組であると判断される。

④ 学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が非常に優れている

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1 項目）が「非常に優れている」であったことから、「中期目標の達成状況が非常に優れている」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「非常に優れている」であることから判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期目標「学生の学習に対するサービスを充実し、その支援環境を整備するとともに、学生生活に対する援助、助言、指導の体制の充実を図る」について、先輩学生が後輩学生を支える「ピア・サポート」制度を導入し、サポーター養成講座等の研修を実施したこと、大学院博士後期課程在学学生・修了生に対する「ノンリサーチ・キャリアパス支援事業」を実施したことは、学生の多様なニーズに対応した支援が実施されているという点で、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「学生に対する心身両面のケアを行う体制を強化する」について、新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラムに採択された「潜在的支援力を結集した支援メッシュの構築」により、悩める学生を対象に、文化的活動等を媒介とした学生同士のコミュニケーションの活性化を図っていることは、特色ある取組であると判断される。

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「良好」であることから判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 研究の水準、成果、実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「研究の水準、成果、実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（8項目）のうち、3項目が「非常に優れている」、3項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、3項目が「非常に優れている」、4項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「研究者受入れ環境を整え、国際的に優秀な研究者の採用を増やす」について、特任教授制度等を導入することにより、優秀な研究者を採用したこと、また、若手研究者においては、多くの外部資金を獲得して研究が進み、文部科学大臣表彰若手科学者賞をはじめとする数多くの学術賞を受賞していることは、優れていると判断される。
- 中期計画「人文・社会・自然の各分野で基礎的・萌芽的研究の進展を図る」について、総長裁量経費等により萌芽研究、融合的研究が進められており、数多くの賞を受賞していることは、優れていると判断される。
- 中期計画「名古屋大学を代表する世界最高水準の研究を推進する研究専念型組織で

ある高等研究院の充実と発展を図る」について、高等研究院では、国際諮問委員会 (International Advisory Board) の提言を得て、プロジェクト及び流動教員制度の見直しを行い、厳選した教員に研究専念環境を提供していることは、優れていると判断される。

- 中期計画「高いレベルの基盤的学術研究体制の上に、重点分野に対する中核的研究拠点の形成を図る」について、21 世紀 COE プログラム及びグローバル COE プログラムに多数採択され、中核的な研究教育拠点を形成し、さらに展開していることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画で「産学連携を促進する」としていることについて、「産学官連携ゾーン」の中核施設として、主に高輝度青色発光ダイオードの特許実施料収入で赤崎記念研究館を建設したことは、産学連携体制を強化している点で、特色ある取組であると判断される。

(顕著な変化が認められる点)

- 中期計画「研究成果に対する客観的な評価を行うことができる全学的な評価体制を確立する」、「評価企画室等を活用して、研究活動の成果を収集・分析するシステムを整備する」について、平成 16 ～ 19 年度の評価においては、研究成果を収集・分析するシステムはすでに整備が進んでおり、平成 19 年度には科学研究費補助金 10 専門分野に対応する部局の枠を超えた作業部会が設置され、「おおむね良好」であった。平成 20、21 年度の実施状況においては、同作業部会で個々の業績についてピア・レビューを行い、妥当な評価結果を得ている。研究成果に対する全学的な収集・評価体制が確立され、機能していることが評価できることから、「良好」となった。

(Ⅲ) その他の目標

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が**良好**である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標 (3 項目) のすべてが「良好」であることから判断した。

(参考)

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（3項目）のすべてが「良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 社会との連携に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「社会との連携に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5項目）のうち、2項目が「非常に優れている」、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2項目が「非常に優れている」、2項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画で「地域社会との連携により、地域の防災の向上に寄与する」としていることについて、愛知県、名古屋市等の地方自治体と連携して、災害対策室を中心に「防災アカデミー」の開催等の諸事業を展開し、地域の防災力の向上に貢献していることは、優れていると判断される。
- 中期目標「地域の教育の質の向上に対して、大学の知的活動による成果の活用と提供を推進する」について、高大連携に関し、愛知県教育委員会との連携による高校生を対象とした講座の開講、スーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）事業等に協力して大学での実験・講義、高等学校への講師派遣を実施していることは、高等学校における教育の状況を的確に把握し、導入教育に反映している点で、優れていると判断される。
- 中期計画「附属図書館、博物館等の学内施設の公開を進め、地域サービスを充実する」「地域文化の振興を図るための公開講座、講演会を増やす」「地方自治体と連携した文化事業を充実する」について、平成 20、21 年度において、名古屋大学博物館は常設展示・企画展等に加え、ノーベル賞受賞記念特別展のほか、学外と連携したいくつかの企画を実施した結果、年間来場者が倍増した点、附属図書館は公共図書館との協力事業を強化するとともに、市民との交流行事を実施して安定した参加を得ている点で、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「公開講座等の社会人のための教育サービスの充実を図る」について、定

年退職者等を対象とした、現役時代に培った知識・技能を地域社会に伝承していくためのスキル修得を支援する「社会人講師入門講座」を開講していることは、時宜にかなったユニークな取組であるという点で、特色ある取組であると判断される。

（顕著な変化が認められる点）

- 中期計画「附属図書館、博物館等の学内施設の公開を進め、地域サービスを充実する」「地域文化の振興を図るための公開講座、講演会を増やす」「地方自治体と連携した文化事業を充実する」について、平成16～19年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成20、21年度の実施状況においては、「良好」となった。（「優れた点」参照）

② 国際交流に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

（判断理由） 平成16～19年度の評価結果は「国際交流に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のうち、1項目が「非常に優れている」、2項目が「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「非常に優れている」、2項目が「良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

（優れた点）

- 中期計画「日本語教育のオンラインコース教材の開発を支援する」について、9か国語のオンライン初級日本語教材等を開発したことは、留学生の多様なニーズに対応している点で、優れていると判断される。
- 中期目標「国際化時代をリードする国際共同研究・国際協力を促進する」について、産学官連携推進本部に国際連携部を設置して推進体制を整備し、体制を強化したことは、国際的な産学連携を積極的に推進している点で、優れていると判断される。

③ 学術情報基盤に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

（判断理由） 平成16～19年度の評価結果は「学術情報基盤に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「良好」であ

ることから判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「全学の学術の基盤となる附属図書館、博物館を始めとする全学共通基盤施設の充実と発展を図る」について、附属図書館では、情報サービスに関して、学習・研究に必要な情報収集のガイドをテーマごとに整理してウェブサイト上に公開する「情報への道しるべ (パスファインダー)」を作成し、信頼性の高い情報提供を行ったこと、また、博物館では、野外観察園の一般公開を実施するなど、キャンパスミュージアム構想を推進し、キャンパス空間全体の教育機能を高めたことは、優れていると判断される。